

令和6年度事業実績報告書

令和7年4月30日

愛媛県議会議員 福羅 浩一 様

議員氏名 笹岡 博之



主な政務活動の実施状況について、次のとおり報告します。

1 調査研究の概要

農林水産業の振興について

本県の質の高い愛育フィッシュや柑橘、原木椎茸など、海外で高い評価を受けている。特に愛媛県としても新しい市場として、インドへの輸出に挑んでいる。インドで20年以上、日本の魚を輸入販売している日本人の業者さんと私は長年親しくお付き合いしてきた。先日、チェンナイに本県訪問団が行った際の、日本食でのレセプションでも彼のアテンドによるところが大きい。柑橘については、インドへの輸出は難しいが、生魚については日本食ブームに乗り、年々拡大傾向である。インドを拠点に、1ヶ月に1回は、来日し愛媛に来る彼と生産現場を回り、私自身も勉強になった。今後の海外への取引拡大に期待したい。

物価高騰への対策

米の高騰をはじめとして、生活必需品の値上げラッシュが続いている。生産者にとっては、肥料や飼料の高騰もあり、多少の値上げでは追いつかないとの声も聞こえてくる。年金生活者にとっても、生活必需品の値上げやエネルギー価格の高騰は生活を直撃している。緩やかな円高傾向により、輸入価格が下落傾向にあっても、トランプ関税の行方が不透明ななかでは、企業も方向性を見いだせないのが現状。国レベルでは、消費税減税の議論が活発であるが、金利と為替政策も重要と考える。もちろん、日銀の独立性の確保も大事であるが、手持ちのカードが多いにこしたことはない。地方創生臨時交付金の活用はもちろんのこと、国会議員を通じて国へも引き続き要望して参りたい。

医療政策について

公立病院をはじめ医療機関の疲弊が著しい。このままでは救急医療をはじめ地域医療の崩壊は目前。即効的には診療報酬の引き上げだと思うが、医師の偏在や看護師不足の解消など抜本的に取り組まなければ限界点はすぐそことの声が満ち満ちている。医師や看護師の一部には、直美チョコビという言葉に象徴されるように、報酬の良い美容整形の方に、新人から行ってしまう傾向もあるという。高額療養費制度の見直しについても、激変緩和措置の必要を求める声を多く国会議員を通じて届け



た。多くの県民は、持続可能な医療制度の必要性は理解していると思う。ただ丁寧に進めなければ、生命に関わることだけに、当事者の納得を得るのは容易ではない。これからも現場の声を拾い上げ、政策に生かしていきたい。

DXの推進について

DXの推進により、業務の効率化はもちろんのこと、日常生活でもスマホ等でのAI活用など、劇的な変化が起こり始めた。「手のひら県庁」も大いに進めて頂きたい。ただ、制度の運用自体を柔軟な発想で見直さないとDXの効果も半減する。今後の見直しに期待したい。また、高齢者のスマホ使用者も随分増えてきた感がある。デジタル支援員の設置など、通信キャリアと連携しての県の努力には、敬意を表したい。ただ、毎日のように入ってくる詐欺メールには、本当にウンザリする。日々新しい手口で、だまそうとするので本当に恐ろしい。老若男女関係なく情報リテラシー教育の必要性を強く感じる。これからも国、県、また市町と連携しながら必要性を訴えていきたい。

産業政策について

県内にはキラリと光る技術を持ち、新しい分野に新しい技術で挑戦している企業が多くある。国会議員を案内したり、県にアドバイスをもらったり、当面する課題の克服に少しでもお手伝いできればとの思いで、日々、情報収集に取り組んでいる。大きく花開く企業が陸続と続く愛媛県であるよう、これからも取り組んでいきたい。

2 その他の政務活動の概要

ケアリーバーの若者支援にNPOと連携しながら取り組んできた。昨年、県の支援を頂き、施設の開所となり、知り合いにも声をかけ現在お世話になっている。また、引きこもりや貧困など困難を抱える若者の支援に、これからも現場の声を大事にしながら取り組んでいきたい。

継続案件として、手話言語条例をはじめ視聴覚に障がいのある方からの、情報コミュニケーションに関する条例制定の要望は引き続き多く頂く。点字や手話などのコミュニケーション手段の確保は、場合によっては生死に繋がる重大事である。全国でも情報コミュニケーション条例を制定している自治体は多い。これからも、仲間の人たちと条例制定の運動を継続していきたい。